

---

# 気まぐれバス

木の実

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

気まぐれバス

### 【Zコード】

Z0458Q

### 【作者名】

木の実

### 【あらすじ】

バスの中。ただ気まぐれに、キスしたくなつた。

ふと、隣を見る。

今はバスの中。一番後ろの席に座っている。窓側には20代前半のスーツを着た男性が眠っている。最初は混んでいたけれど、田舎に近づくにつれて、人がどんどん降りていき、今では5、6人しか乗っていない。

もう一度、見る。

今、私を見る人はいない。みんな私より前にいるからだ。隣のスー  
ツの男性を除いては。

別に欲求不満なわけじゃない。

ただの好奇心。

ただの疑問。

もし、私がこの男性にキスしたらどうなるだろう。

頭がふわふわしてきた。

もう全てがどうでもいい。

身体を静かに寄せる。

ゆっくり顔を近づける。

すやすや、という効果音が似合つよくな。

心地良さそうな寝顔。

ああ、引き寄せられる。

そっと。

彼の唇と私の唇を合わせる。

ほんの、2秒。

息を止めて、目を閉じる。

離したとき、まだ男性は眠っていた。

物足りない。

物足りない。

気付いて。

私を感じて。

今度は強引に、唇をつける。

さすがに、男性は目が覚めた。

驚いた表情。

当たり前だ。

セーラー服を着た女子高生がキスをしているのだ。  
しかも、見たことのない人間。

顔を背けようとする彼を。

なぜだか、引き留めるように。

私は顔に両手を添えて、深く唇を合わせ続ける。

最初は押し返すように私の肩を握っていた男性も、だんだん力が抜けて、腰に手を回す。

一方的だったものが、お互いを求め合いつよい。

口を開いて、舌を絡ませる。

甘い吐息。

ただひたすら、相手を感じる。

満たされてゆく。

身体の奥から熱が溢れ出す。

ああ、生きている。

活き活きと、生き生きと、身体が疼く。

それを確認して、安心する。

もう一度軽く唇を合わせて、右手でピンポンを押す。

運転手の氣だるい声。

私は彼から離れる。

彼は私を見る。

私も彼を見る。

深々と頭を下げる。

もう、会うことはないでしょう。

心の中でそう伝える。

なぜなら、これは気まぐれ。

このバスは絶対乗ることのない方向。

降りたあとは、反対方向のバスに乗るまでだ。

何事もなかつたかのように。

私は席を立つ。

まだ、素つ頬狂な顔をしている彼を乗せて。

バスは、私の知らない場所へと走りつづける。

(後書き)

バスの中って、他人がいっぱいいて、なんだかふわふわします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0458q/>

---

気まぐれバス

2011年1月13日07時43分発行